

和牛試験場 40周年記念式典挙行

畜 産 課

新見市千屋の岡山県和牛試験場では、創立40周年と施設の整備拡充竣工を記念して、記念式典を去る4月28日正午から新築された試験場講堂で盛大に行われた。

この日の式場には農林省畜産局始め京都大学教授の西川博士、県議会、県内畜産関係者など約300人が出席して会場を埋めた。

式は先ず、知事挨拶に始まり、蔵知畜産課長が知事代理として

「和牛試験場は昭和32年度以来3ヶ年間にわたり、関係方面から寄せられた浄財と、1,300万円の県費を投じ、全国各県に類例のない充実した和牛試験場の整備拡充をみた訳であって、本県の今後の畜産発展の上から、まこと御同慶の至りである」

と挨拶し、続いて加本和牛試験場長はこの試験場の沿革について

「元来当地は千屋牛の産地の中心にあり、天然の環境が産牛に適することから、大正10年6月3日、岡山県種畜場千屋分場として創立された。爾来種牝牛の育成配布、種牛の系統繁殖、めん羊の飼養、羊毛加工等を主な業務としていたが、その後有畜営農奨励の目的で豚・鶏・兎に至るまで飼育し、昭和12年10月1日岡山県千屋種畜場として独立することになった、その後水田経営と養鶏は中止し、自給飼料の栽培に力を注ぎ、馬産奨励の目的で種牝馬を設置したが、昭和20年以降はさらに人工授精の啓蒙と普及に着手した。終戦後津山畜産農場が開設され、また岡山種畜場の移転するに当たり当種畜場は本来の使命たる和牛の改良発達のために、つる牛の造成、草生改良に専念することになり、昭和24年以降豚鶏を廃止して、僅かに試験動物としての飼養に止めることにした。さらに時代の変遷に伴い岡山種畜場が自衛隊の屯営として接收せられて移転する機会に、それぞれ養鶏と酪農の専門的試験場として独立するに当り、当场も同様に広く和牛に関する試験調査を実施することになり、昭和31年4月1日和牛試験場と改称するに至った。

爾来伝統的な和牛育種事業の他、最近特に肉畜とし



ての各種の試験、草地造成と飼料作物に関する試験を行い、一般農業の伸展に込え食肉需要の傾向に対処せんとしているのである。ここに4年を振り返ってみてまことにささやかな存在であったが、この機会を契機として諸賢の御批判と御鞭撻を得て一段と任務に精励し、斯界の御期待に応えたい。」

と報告があり

このあと西井県畜産課長補佐から道路、肥育牛舎、講堂などの施設整備の経過報告があった。

そして試験場発展の功労者として故梶並前場長の知事表彰や、永年勤続者として山上米雄氏、湯原延年氏、植田好美氏に対して場長表彰が行われ、さらに、来賓代表として林新見市長の地元民を代表した祝福の挨拶が述べられた。

場内にはこの日を記念するために募集した和牛写真コンクール入選作品展示や、参考資料の陳列があり、特に千屋牛の基を築いた太田辰五郎翁の遺品は多くの参観者の目を引いた。

また調教場では、第二難波号と第三柄号の調教実演が行われ、碁盤の曲乗りや橋渡りなどのほか最後の敬礼には観衆から拍手が湧いた。